

**製品名: Smad2 (19V12) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe17989**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:100-1:200, FC 1:50-1:200
分子量	52kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SMAD2
別名	JV18-1; MADH2; MADR2; Mad-related protein 2; Mothers against DPP homolog 2; Smad 2;
遺伝子 ID	4087.0
SwissProt ID	Q15796
免疫原	ヒト Smad2 の合成ペプチド

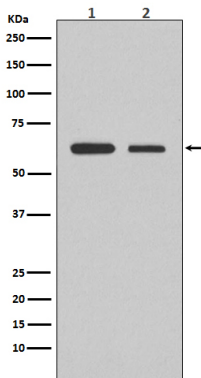
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ショウジョウバエの遺伝子「mothers against decapentaplegic」(Mad) および線虫の遺伝子「Sma」の遺伝子産物に類似したタンパク質ファミリーである SMAD に属します。SMAD タンパク質は、複数のシグナル伝達経路を仲介するシグナル伝達物質および転写調節因子です。受容体制御 SMAD (R-SMAD) は、TGF- $\beta$  (形質転換成長因子) およびアクチビン 1 型受容体キナーゼによって活性化される細胞内シグナル伝達物質および転写調節因子です。TGF- $\beta$  によって制御される多くの遺伝子のプロモーター領域にある TRE エlement に結合し、SMAD2/SMAD4 複合体の形成時に転写を活性化します。結腸直腸癌において腫瘍抑制因子として作用する可能性があります。負の調節因子として機能する 14-3-3 タンパク質 YWHAQ からの解離を刺激することにより、PDPK1 キナーゼ活性を正に制御します。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



(1) Jurkat 細胞溶解物、(2) RAW264.7 細胞溶解物における Smad2 発現のウエスタンブロット解析。